ＪＲ東海労ニュース

№1193
2009年 1月3日
ＪＲ東海労働組合

年越し派遣村、京品ホテルへ支援・連帯！

労働者にとって、かつて無いほど厳しい年明け！

全ての仲間たちと連帯して、この世の中を変えよう！

派遣村開村式

組合員の皆さん！

新年あけましておめでとうございます。社会情勢が一段と厳しくなり、労働者にとっては、かつて無いほど厳しい年明けとなりました。今こそ労働組合の存在価値が問われます。この難局を乗り切るために、本部も最先頭で奮闘する決意です。一段と団結を強化し頑張りましょう。

12月31日、本部は、ＪＲ総連に結集する仲間たちと共に、日比谷公園で行われた「年越し派遣村」開村式、越年闘争で解雇撤回に向け闘っている「京品ホテル」の仲間たちへの支援・連帯、激励の闘いを展開してきました。製造業などを中心にした突如の「派遣切り」などで職を奪われた労働者たちと連帯し、共に闘うために「ＪＲ東海労平和基金」から激励カンパを行い、解雇撤回に向けた署名を行ってきました。全ての労働者が連帯して、この世の中を変えるために頑張りましょう！

1月3日東京新聞

布団などを持って日比谷公園から厚労省へ移動する「年越し派遣村」に集った人たち＝2日午後8時20分、いずれも東京・霞が関で

年越し派遣村へ300人超

厚労省講堂 宿泊用に開放

契約を突然打ち切られ住居を失った派遣労働者らを支援するため東京都千代田区の日比谷公園に設けられた「年越し派遣村」の実行委員会は2日、12月31日の開設から3日間で300人を超える人が集まったと発表した。

さらに増えることが予想されるため、実行委は二日、厚生労働省に初し、宿泊場所としてロビーや学校体育館を開放するよう要請。厚労省は公園に隣接する隣省の講堂を開放し、ほとんどの人が移動した。五日午前九時まで開放する。選挙議村が集会で「講堂のし、約五十のテントな

開放は、待ちの声がいう。「国に届いたからだ」と話すと、拍手がわき起こった。また、東京都中央区も旧小学校講堂の「京華スクエア」など施設を開放するよう要請。二カ所を日から一週間程度開放する。

実行委では約百五十人の受け入れを想定し、問い合わせは、事務局の090（3994）5244へ。

どを帯びていた。かし、予想を上回るが集まり、現在は約百八十人が寄宿まりている。講堂に移動した人の中には、歓迎する一方、「一日もはどこで過ごせばよいのか」と不安を口にする人もいた。

派遣村ではに生活相談や労働相談を受け付けており、これまでに約八件の相談があったという。派遣村は、特非営利活動法人（NPO法人）「自立生活サポートセンター・もやい」などでつくる実行委が設けた、ハローワークの相談員などが再開する五日まで続ける。問い合わせは、事務局の090（3994）5244へ。

京品ホテルへ寄せられた全国から激励